

レポートのルーブリック

	参照 項目	5	4	3	2	1
レポートの理解	リエゾンナビ第3章第9節「レポートを作成してみよう」【1】「レポートとは？」参照	①レポート、②学術レポート、③研究論文の区別が説明でき、自分でも書き分けることができる。	①～③の区別は説明できるが、③についてはまだ書ききられていない。	①～③の区別は何となく説明できるが、②から③への離陸ができない。	①～③の区別があやふやで、適正な方向性をもって踏み出すことができない。	①～③の区別すらない。
全体的な構成	(リエゾンナビ第3章第9節「レポートを作成してみよう」【2】「レポートの形式」参照)	序論・本論・結論に分け、1テーマに向かって有機的に関連づけることができる。	序論・本論・結論に分け、テーマとの有機的な関連づけはおおむねできている。	序論・本論・結論に形式上は分けられているが、全体的に有機的な関連性が薄い。	テーマが分散しているなどの理由から、論理的な構成に限界があり、実践できていない。	ただらと書き進められており、論理的な構成を行おうとした自覚すらない。
序論	リエゾンナビ第3章第9節「レポートを作成してみよう」【2】「レポートの形式」【3】参照	①学術的(知的)水準、②自説の位置づけ、③意義、④論証の手順・方向が示されている。	①にはふれるが、②・③に弱さがある。④は示されている。	①の把握は恣意的であり、②・③は説明したくとも、語るべきものが少なすぎる。	①の把握が開きかじりであったり、独善的であるため、②・③・④に説得力がない。	①～④のいずれも示されない。
本論	リエゾンナビ第3章第9節「レポートを作成してみよう」【2】「レポートの形式」【3】参照	論証の課程が説得的であり、一つのテーマに向かって無駄のない文章となっている。	論証の課程はおおむね説得的であるが、テーマから逸れた雑駁な部分が一部見られる。	論証の課程は説得的とは言いがたく、各節がどのような有機性のもとに関連づけられているのかが見えにくい。一部、説得的な展開が見られる。	論証の課程が場当たりのであり、統一のテーマが何であったのか、ほとんど理解しがたい。説得的と認められる部分も他者の受け売りの感が強い。	そもそも、論証の課程というには、お粗末すぎる文章の羅列となっている。
結論	リエゾンナビ第3章第9節「レポートを作成してみよう」【2】「レポートの形式」【3】参照	結論は一言で言える。そして、独創的である。	結論は一言でいえる。しかし、独創性には自信がない。	結論はなんとかひねり出せる。しかし、自説の展開は些末的で、他説をつぎはぎしたような後ろめたさが残る。	結論とは名ばかりの牽強附会・唯我独尊的な説で、学恩を蒙った記憶がない。	そもそも、語るべき結論がない。
引用文献の書式	リエゾンナビ第3章第9節「レポートを作成してみよう」【3】「引用について」参照	引用の仕方(3つの方法)について説明でき、縦横に活用できる。	3つの引用方法について知ってはいるが、確認しながらでないと活用できない。	引用の仕方について、2つは知ってはいるが、あとはよく知らない。	引用の仕方について、1つは知ってはいるが、あとはよく知らない。	引用の仕方については知らない。
クリティカル・リーディング	リエゾンナビ第3章、第1節「読解力を高めよう」【4】の【1】「クリティカル・リーディング」を参照	定説以外の、先行研究にたいする資料批判は必要に応じて行っている。	自論に関わる限定的な先行研究においてのみ、資料批判は行っている。	先行研究を読み比べ、二次的資料の上で各説の優劣をジャッジしているにすぎない。	先行研究に対する知識は、伝聞や拾い読みで構成されており、その理解は独善的である。	そもそも、クリティカル・リーディングの意味すら知らない。
知的水準の把握	リエゾンナビ第3章第9節「レポートを作成してみよう」【1】「レポートとは？」【4】参照	先行研究を要約し、研究史の流れを説明できる。	自論に関わる局所的・限定的な範囲では、先行研究と研究史の要約ができる。	現行の代表的な先行研究ならば、一つ二つは把握している。	現行の知的水準を根拠なく、自分流に把握しているつもりでいる。	そもそも、現行の知的水準に関する認識がない。
題意把握		①レポートの課題、②教員の意図する方向性、③望ましい解答の方向性、いずれも正確に理解し実行している。	①については正確な理解がなされているが、②・③のいずれかに不足がある。	①・②については正確な理解がなされているが、③にやささか不足がある。	①～③の内一つは正確な理解と実践的な努力がなされているが、他の2点には不足がある。	①～③のいずれをとっても、欠如している部分が多い。
表現力		①誤字脱字、②主語述語の乱れ、③形式段落の正しい使い方、④テーマに沿った内容と章立て、いずれも適正。	①～④の3つ以上が適正に表現されている。	①～④の2つ以上が適正に表現されている。	①～④の1つ以上が適正に表現されている。	①～④のいずれも適正ではない。